

極楽寺だより

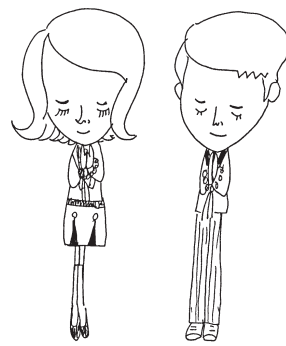
2020(令和2)年6月号



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派） ☎ 759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎ 0837-43-0625

六月十三・十四日勤修予定

夏法座中止のご案内



緊急事態宣言は解除されましたが、新型コ

ロナウイルスには、まだまだ油断できません。

残念ながら、今回の法座も中止にせざるを

得なくなりました。何とぞご理解をお願いいた

します。

極楽寺だより 今月号の内容

- 2019 年度門徒会計 決算報告 今年度会費納入のお願い
- オシエノカケラ「住職お薦め 勇気の出る言葉」
新型コロナウイルスの影響で、不安を抱えておられる方も多いのでは。そこで、住職がツライ状況の時に、勇気をいただいた言葉をご紹介します。皆さんの心にも届けば幸いです。
- 築地本願寺新報掲載「薫る風に吹かれて」
東京の築地本願寺から発行される『築地本願寺新報』に依頼されて、原稿を書きました。極楽寺だよりにも、掲載いたします。
- 極楽寺掲示伝道 6月「みんなと同じことをしないというみんなと同じセリフ」
5月「うれしい時でも悲しい時でも、自分の人生はここにある」
- お知らせのページ 住職のつぶやき

ご報告

総代・世話人会議は新型コロナウイルスの影響により開催できませんでしたが、下記の通り収支決算の承認をいただきました。

2019（令和元）年度極楽寺門徒会収支決算書

2019年4月1日～2020年3月31日

	費目	金額(円)	摘要	
収 入	門徒会会費	1,127,000	今年度分 255 戸× 4,000 円 (野波瀬 105 / 在方 105 / 町外 45)	1,020,000
			今年度分不足分 1 戸	2,000
			前納分 9 戸	101,000
			後納分 1 戸	4,000
	本山教化助成金	3,500		
	貯金利息	19	6/28 6円 8/19 3円 2/17 10円	
	前年度繰越金	1,898,233	本堂雨樋受金具取替工事の為	501,380
特別会計より回金	1,387,342	害獣対策工事の為	885,962	
合計	4,416,094			
支 出	負担金	423,780	本山賦課金	265,980
			山口教区費	121,200
			大津東組 組費	36,600
	研修会費	3,000	組総代会総会 (8/7)	3,000
	火災保険料	302,980 本堂 6,700 万円 庫裏 4,000 万円	西部農業共済	91,200
			JA 共済	161,680
			JF 共済	50,100
	会議費	60,000	6/24 総代・世話人会議	
	慶弔費	10,000	大田忠男世話人葬儀御仏前	
	修理費	1,387,342	12/25 本堂雨樋受金具取替工事	501,380
2/17 害獣対策工事			885,962	
予備費	440	害獣対策工事費振込手数料		
合計	2,187,542			
差引残金	2,228,552	山口銀行普通預金		

2019（令和元）年度極楽寺門徒会 特別会計収支決算書

	費目	金額(円)	摘要	
収入	前年度繰越金	2,699,070		
	利息	123	漁協解約時(普通) 1円・漁協解約時(定期) 6円・山銀定期解約時 116円	
	合計	2,699,193		
支出	通常会計へ回金	1,387,342	屋根樋受け金具取替工事の為	501,380
			害獣対策工事の為	885,962
	合計	1,387,342	山口銀行普通預金	
合計	1,311,851			

門徒会費 4,000 円の納入をお願いいたします。

三隅地区の方は世話人さんへ。

他地区の方は、直接お寺へ納入して下さい。



住職お薦め 「勇気の出る言葉」

新型コロナウイルスの猛威は、やや落ち着き
ましたが、まだまだ収束する気配が見えません。

感染の恐怖だけでなく、経済的な生活の不安、自粛が生むストレスや孤独、様々な問題が私たちを覆っています。

先が見えない不安と恐怖の中では、人間の視野は狭まり冷静さが失われます。しかも、不安は不安を呼び、恐怖が恐怖を煽ります。インターネットやSNSの発達でそのスピードは増し、不安の感染力と影響力は、実はウイルスよりも強力ではないかと思うほどです。

そんな中にあつても今日の一日は、私にとっては人生の大切な一日です。ならば、不安に流されるよりも、大切に、丁寧に生きていかなければ、人生を虚しく過ごすことになってしまいます。ということ、住職お薦めの「生きる勇気がもらえる言葉」を紹介したいと思います。これらの言葉が、皆さんの心にも響き、力になれば幸いです。↘

「せっかくだから」

まず一つ目は、マラソンランナーの
有森裕子選手や高橋尚子選手を育てた
名コーチ・小出義雄監督の言葉「せっ
かくだから」です。小出監督は口癖のように、「どんな状況の時
も『せっかく』と思えばいいんだよ。そうすれば、すべてが力に
なる」と言われていたそうです。

有森選手が練習のしすぎで故障した時も、「せっかく故障した
んだから、今しかできないことをやろう」と励まされました。こ
れは、いろんな場面で応用が効きますよね。

「せっかく自宅で自粛するのなら、日頃できないことを楽しもう」
「せっかく動けないのなら、本を読もう。映画を観よう」

「せっかく失敗したんだから、次に活かし、成長につなげよう」
マイナスだと思っていたことが、プラスに変わる。そうすると、
ぱっと視界が開けるような、思い込んでいた状況が変わっていき



くような、そんな気持ちになってきます。

「そこがいいんじゃない」



二つ目は、イラストレーターでエッセイストのみうらじゆんさんの「そこがいいんじゃない」です。観光地に行ったとき「誰が買うだろう」と思ってしまうようなセンスのない土産物が売っていたとします。「これ、ひどいなあ」と眉をひそめるのではなく、そこであえて「そこがいいんじゃない」と言ってみる。すると、「あれ、それもまたいいのかな。そうだね。それもおもしろいかもね」と視点が柔らかくなる。欠点が味わいになり、くだらなさが逆に笑えるポイントになり、おもしろさが変わる。違った価値や魅力も感じられる。みうらさんは、この言葉を称えたら「人生が変わる」とさえ言われています。

これは、人間関係にも応用できそうですね。自粛生活で、家族と過ごす時間が長くなると、気分転換ができずに、息苦しいものになる。日頃は何ともないことにイライラしてしまい、家族の欠点が目についてしまう。そんな時に、「そこがいいんじゃない」と思ったら、視点が変わり、相手が愛おしく見えてくるかもし

れません。

「にもかかわらず」



三つ目は、医師で作家の鎌田実生

生の「にもかかわらず」という言葉です。鎌田先生のお母さんは心臓病を患い、お父さんは働きづめの毎日で、貧しい少年時代を過ごしました。大学の学費も自分で稼ぎ、ようやく医師となったある日、衝撃的な事実を知りました。海外渡航のためにパスポートをとろうと戸籍謄本を見ると、自分は養子だということがわかったのです。生みの親に捨てられた自分を、父と母は温かく育ててくれた。貧乏で余裕のない状況にもかかわらず…。その両親の生き方が、「にもかかわらず」という言葉を授けてくれたと鎌田先生は語られます。まさに、逆境や困難、絶望の中で、「にもかかわらず」生きた人の歴史を思い出させてくれる言葉です。そしてまた、失敗した「にもかかわらず」、また生き直すことができるといふ希望の言葉でもあります。

挫けそうになった時、「もう、終わりだ」と思った時、「にもかかわらず」そこから歩み出した人がいる。そこに私は、健気さと尊さを感じ、勇気をいただくのです。

「南無阿弥陀仏」

そして、最後のおススメが「南無阿弥陀

仏」のお念仏です。源信僧都の『往生要集』

南無阿弥陀仏



という書物には、地獄の中で最も恐ろしい「無間地獄」に落ちていく罪人が、地獄を前にして泣き叫びながら詠んだ歌があります。そこに「我、今、帰するところ無く、孤独にして同伴無し」という言葉があるのです。安心して落ち着ける場所もなく、帰っていくところもなく、共に生きてくれる人もない。最も恐ろしい地獄を前にして、この言葉があるということは、人間にとって孤独ほどつらいものはないのだと教えられているようです。

近頃は、「死んだら終わり」という考え方を持つ人が多い時代ですが、「生きているうちが花」という考え方は、死を突きつけられると脆いものです。投げやりになり、目先のことしか考えられなくなりがちです。自分が感染したから「コロナをばらまいてやる」と飲食店をわざと訪れた人、「コロナにかかるか、ストレスで死ぬか」とパチンコ通いを止めない人、感染者を非難し、差別し攻撃する人、みんな不安の中で視野が狭くなっている。そして、孤独に死んでいくことに苦しんでいるのです。

親鸞聖人は、「南無阿弥陀仏」のお念仏は阿弥陀様からの呼

び声だと、教えていただきました。それは、どんな時でも独りではない。いつも阿弥陀様が共にいてくださる。そして、死んだら終わりの人生ではないのだと。教えられる呼び声です。

私たちには、生と死を超えて受け止めてくださる阿弥陀様のお浄土がある。お浄土は「俱会一处」、また会える場所。先に往かれた方が待つていてくださる場所です。私たちはお浄土へと帰っていく人生を、お念仏を通していただくのです。阿弥陀様と共に、仏様になられた亡き方と共に、生きる人生が開かれていくのです。人生の方向が定まり、共に歩む人と出会う。そこにこそ、不安の中「にもかかわらず」、死を突きつけられた「にもかかわらず」、「せっかくだから」と、今の状況を受け入れ、精一杯生き切る力が生まれてくるのではないのでしょうか。「そこがいいんじゃない」と笑い飛ばせるような、柔らかな心も育てられてくるのでしょうか。「南無阿弥陀仏」には、そんな生き方をされた人々の歴史も込められているのです。

いかがでしょうか。すべて、私が生きる勇気をいただいていた言葉です。これらの言葉が皆さんの心にも響き、また生きる力が出て来たなら、これほど嬉しいことはありません。大変な状況ですが、一日一日を大切に、精一杯生き抜いていきましょう。■

東京の築地本願寺発行の『築地本願寺新報』に、法話を寄稿しました。テーマは、季節。せっかくですので、極楽寺だよりも掲載いたします。

「薫る風に吹かれて」



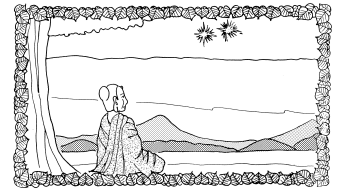
五月は薫風の季節と言われます。薫風とは、若葉の薫りを含んだ穏やかな風のことで、夏の兆しをはらんだ風が緑の樹々を渡り、匂うような清々しさを伝えてくる。そんな生命力に満ちた季節を感じた人たちが、「風薫る」という美しい言葉で表現されたのです。ところが私たちは、エアコンで管理された空間に閉じこもり、豊かな世界を見失ってはいないでしょうか。時には窓を開け、風を感じ、薫りや季節の移ろいを味わってみる。そんな時、これまでの景色が違うものに見えてくるはずです。

考えてみれば、昔の家は風通しが良いものでした。それは季節の移ろいに限らず、人の出入りも多いものでした。プライバシーはなく、思い通りにならないこともありました。様々な音や声が行き交い、お節介やお世話も溢れていたものです。困った時には、お互い様。助け合い、支え合うコミュニケーションも、風通しの良い空間があればこそ。しかし現代社会の家は気密性が高く、プライバシーが守られる作りとなりました。自分の思い通りにできる快適な空間を求めたライフスタイルへと、変化したのです。

ところが仏教では、「思い通りにしたい」という思いが強いほど、苦しみもまた強くなると考えます。確かに思いが強いほど、「思い通りにならない」ことへのストレスは増えていきます。今まで気にならなかった他者や音が、快適な空間を邪魔するものに思えてくる。些細な音が気になり、お節介を鬱陶しく感じ、人に迷惑をかけられることを嫌がるようになる。コミュニケーションは薄れ、孤立が深まります。順調なうちはそれでも良いのかもしれませんが、人生そう上手くはいきません。困った時が大変です。「迷惑をかけられたくない」という思いの強さが、「迷惑をかけてはいけない」という思いとなり、助けが呼べなくなってしまうのです。何より、「思い通りにできないのは、自分がダメだから」と自らを責め始めると厄介です。思いが強いほど逃げ場もなくなり、「こんな自分は、生きていく資格がない」と自分を追い込むことにもなりかねません。

だからこそ、風通しを良くしておくことが大切なのでしょう。仏様の教えは、窓の外から吹き込む風のように、広々とした世界を知らせてくださいます。「あなたは、あなたの思いに縛られて、かえって苦しんでいるのではないですか」という呼びかけに、閉じこもっていた世界の小ささを知らされ、視野が広がるのです。迷惑をかけていた自分の姿、支えられ、ゆるされていたことにも目覚めさせられ、これまでの景色が違うものに見えてきます。とはいっても頑なな思いは簡単には変わりませんが、薫りが身体に染みつくように少しずつ育てられていくのです。このような出遇いを、仏道を歩む先達は「薫習」「お育て」という言葉で表現されました。

さあ、窓を開けてみませんか。穏やかで薫りに満ちた風が、私たちにはたらきかけてくださっています。■



極楽寺掲示伝道 けいじでんどう

「みんなと
同じことは
しない」という
みんなと同じ
セリフ



6月の言葉

「自分らしさ」や「個性」が求められる時代です。「あなただけのオリジナル Tシャツ作ります」「あなただけの旅行を」「オリジナル焼酎を」といった商品が、数多く売り出されていますし、「みんなと違う結婚式の演出を」というのも流行りなのだから。みんなと違う髪型や服装で、個性を主張する人も、多く見られます。

私が二十代の頃は、「限定商品」なるものが流行っていました。限定数しか販売されないスニーカーや、腕時計・Gショックを、みんなが競い合って買い求めているのです。みんなが持っていないもの、違うものを持つことに、優越感を感じる時代でした。当時の私も、それに踊らされていた一人です。

どうして、ここまで「自分らしさ」や「人とは違う」ことが求められるのでしょうか。その裏には、多くの商品が大量生産されるようになってきたことがあるのだと思います。同じものが大量に出回ることによって、み

んなが同じようなものを食べ、同じような服を着て、同じようなアパートに住み、同じようにコンビニで買い物をして、学校や会社に行くといったライフスタイルを送る。そんな時代では、いつしか自分の人生さえも、大量生産された商品のように「無個性」や「均質化」しているようにしか、感じられなくなってしまう。どこにでもある商品のように、人生さえもどこにでもあるもののようにしか感じられない。自分の掛け替えのなさを実感できない。そんな思いが逆に、「普通は嫌だ」と「自分らしさ」や「個性」を求める時代を生み出しているのだと思います。

しかし、みんなが持っていないものを持ち、違う髪型や服装をすることが、本当の「自分らしさ」や「個性」と言えるのでしょうか。確かに、内面が髪型や服装として表現される人もおられます。でも、「みんなと違う」ことだけにこだわるのは、「みんな」を意識していることの裏返し。「みんなと同じことはしない」ために、「みんな」がしないことを選ぶ。「みんな」を意識しすぎて、いつしか「自分らしさ」が見失われる。気がつけば、個性を求める人ほど、よく似た格好をしているような気がします。私の大好きなミュージシャン・竹原ピストルは、



「人とは違う生き方をしてやるんだって

人と同じことを思いながら」(『BROTHER』竹原ピストル)

と歌っています。いつしか「みんなと同じことはしない」という言葉に踊らされ、みんなと同じセリフを語っているのかもしれない。

フランスに、サント・ヴィクトワールという山があります。近代絵画の開祖とよばれているセザンヌが、この山の絵を朝に夕に、四季折々に何枚も描いたことで、世界の名山として語られるようになりました。長門市三隅出身の画家・香月泰男先生は、ヨーロッパに遊学された際、初めてその山を見て驚いたそうです。なぜなら、あまりにも変哲のない「普通」の山だったから。

つまりセザンヌの絵が、普通の山を名山にしたのです。それは、有名な画家が描いたからという安易な理由ではありません。サント・ヴィクトワール山の魅力を、「らしさ」や「個性」をセザンヌが描き切ったからこそ、一見普通としか思えない山が、世界的な名山と言われるようになったのです。

香月先生が、自宅の裏山・久原山の絵を何枚も描かれたのは、この経験からだといわれます。(参考：香月美術館10回展の記念画集『私の地球II』)

つまり、何の変哲もない景色も、見る人によって掛け替えのないものに見える。どの景色にも、個性的な魅力がある。それを見抜くことが

できるかどうかということなのです。ならば、自分の人生がどこにでもある普通の人生としてしか思えないというのは、今の自分には、それを見抜く心が育っていないということなのでしょう。「自分らしさ」や「個性」を求めるのであれば、自分のものの見方を深めていくしかないのです。

阿弥陀様とは、すべての生きとし生けるものの掛け替えのなさを見抜き、「あなたを敬われ、尊ばれる仏にさせる」とはたつき続けておられる仏様です。そのはたつきに目覚め、育てられた人々の徳が土地に染みつき、生活文化に息づいていることを「土徳」と言います。

私は、長門に帰ってきて十六年になりますが、「ここは、土徳の地だ」と実感しています。他所の地で暮らしたことで、改めてわかるのです。至る所に、浄土真宗独自の言葉や風習も見かけます。

そんな「土徳」の地、長門市仙崎出身の詩人・金子みすゞさんに「不思議」という詩があります。

わたしはふしぎでたまらない、

黒い雲からふる雨が、銀にひかっていることが



香月泰男先生

わたしはふしぎでたまらない、

たれもいじらぬ笑顔が、ひとりではらりと開くのが

わたしはふしぎでたまらない、

たれにきいてもわらって、あたりまえだ、ということが

『不思議』金子みすゞ

「みすゞさんもまた、「土徳」に育てられたと言っても、過言ではない

と思います。何の変哲もない、当たり前で普通としか見られない景色に

不思議を感じる心。掛け替えのなさ、尊さを見抜く心が、先輩方の歩ま

れた仏法の徳によつて育まれたのです。

私たちは、誰を意識しながら生きていますか。「自分らしさ」

や「個性」を求めるのであれば、「みんな」を意識するよりも、私のも

ののを見方を深めてくださる人々の歩みを、徳を、意識していくべきでは

ないかと思うのです。 ■



うれしい時でも 広瀬 景

悲しい時でも

自分の人生は

そこにある

極楽寺掲示伝道

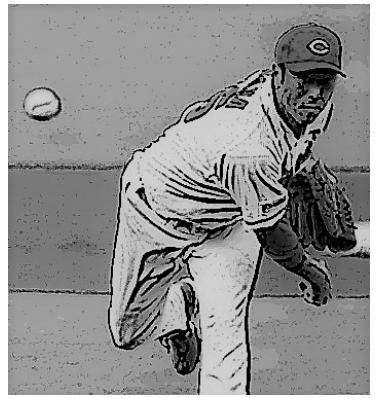


5月の言葉

私の愛する広島カープのレジェンド（伝説の選手）に、黒田博樹投手がいます。二〇一六年に引退した黒田投手は、低迷期のカープをエースとして支えた後、アメリカに渡りメジャーリーグで活躍しました。四十歳になつても、メジャー球団から十億円とも言われる年棒で誘われましたが、「野球人生の最後は、カープファンの前で投げたい」と広島に帰つてきた、男気溢れる投手でした。

さて、この黒田投手。野球選手としては高年齢の四十歳にもかかわらず、なぜ高額のおファーがあつたのでしょうか。評価のポイントは、安定感です。長いシーズンには調子の良い時も悪い時もありますが、黒田投手はいつも安定しているので、チームが勝つチャンスが増える。だから評価が高かつたのです。

その秘訣は、「調子に左右されずに、その日の調子の中でベストを尽くす」ことなのだから。調子が良いからとガンガン行って打たれる、



こともあれば、悪いなりに慎重に投げれば抑えられることもある。だから、その日の状態で何とかしていく。そうしないと、調子が良い時にしか勝てなくなるから。

これは私たちの生き方にも通じるのではないのでしょうか。人生には、調子が良い時も悪い時もあります。調子に頼るだけでは、悪い時にはどうしようもなくなります。だからこそ調子に左右されず、あるもので、より良い人生にしていかななくてはならない。とても大切なことだと思います。

『大無量寿経』というお経に、「身、自らこれを当くるに、代わる者有ることなし」という言葉があります。「私の人生は、誰にも代わつてもらうことはできない」という意味です。思い通りにならなくても、不条理な状況におかれたとしても、誰にも代わつてはもらえない。これは厳しい言葉です。しかし、これが人間の事実です。それは、「いじめられても、差別されても我慢しろ」ということではありません。いじめや差別は、尊さを奪うものであり、恥ずかしく悲しい行為です。しかしもつと悲しいことは、思い通りにならないからと自分の人生を投げ出し、貶めていくこと。自分で自分の尊さを奪うことです。うれしい時で

も悲しい時でも、自分の人生はここにしかないのですから。

何より、誰にも代わつてもらえない人生ならば、誰に代わつてもらわなくても良い人生にしていかななくてはならないでしょう。「あいつのせいで」「もし、こうだったら」と嘆いても、どうにもならない。ならば、あるものでベストを尽くすしかない。そこに心豊かな人生と、心貧しい人生の違いが生まれてくるのではないのでしょうか。

近頃は、居酒屋のトイレに行く

と、格言や名言が貼られていると

ころが増えました。ある人が行か

れた居酒屋のトイレには、こんな

言葉があつたそうです。

「俺はキムタクにはなれないが

キムタクも俺にはなれない」

キムタクとは、元SMAPの

木村拓哉さんのこと。男前で仕事ができ、カリスマ性があつてお金持

ち。元アイドルと結婚して娘はモデルで…と、誰もが憧れる存在です。

しかし残念ながら、私はキムタクにはなれないのです。そこはあきらめ、

受け入れざるをえません。



でも、「ギムタクも俺にはなれない」と言い切れる人生って、凄くないですか？そう言える人生は、きつと素晴らしいものだと思います。このような生き方を、中国の高僧・曇鸞大師は「自体に満足せるがごとく」(『往生論註』)という言葉で教えられました。この私の人生、これ自体で満足だと言える人間を育てるのが、仏法のはたらきなのです。

フランスの思想家レヴィ・ストロースは、「プリコラージュ」ということを言われています。それは、有り合わせの道具や材料を使って、ものを作ることを言います。例えば、冷蔵庫にある材料で美味しい料理を作る。持ち合わせの道具や木切れで犬小屋を作る。「ちゃんとした材料や道具がなければできない」と嘆くのではなく、あるもので何とかすることをいいます。

私たちの人生は、まさしく「プリコラージュ」するしかないのですよ。う。「どうして、こんな環境に生まれたのか」「なぜ、私には才能がないのか」と嘆いても、私の人生は誰にも代ってはもらえない。ならば、あるもので何とかするしかありません。

ちなみに「プリコラージュ」する人は、何か問題が起こった時に一度過去を振り返るのだそうです。問題を解決する為に、これまでの人生でヒントになるものはないかと振り返る。それは自分がないものを嘆くのではなく、「自分には何かがあるのか」を点検する作業です。過去や周

りを見渡してみる。すると、過去が変わります。恥ずかしかった失敗が、大切な経験になる。鬱陶しいと思っていた説教が、尊いアドバイスになるのです。

真宗大谷派の僧侶・金子大榮先生は、

「人生はやり直すことはできない。しかし、見直すことはできる」と言われています。それは、今まで無価値や無意味だと思っていたことに、新たな価値や意味が生まれてくるということでもあります。過去が見直され、世界の見方が変わる。今までは、違う形での出遇いが生まれるのです。周りの人とも、亡き人とも。そして、仏様の教えとも。

うれしい時も悲しい時も、思い通りにならなくても、私の人生はここにしかありません。誰にも代わってはもらえないのです。ならば、調子に左右されず、あるもので、より良い人生にしていかななくてはならない。そう歩み出した時に、思いもよらない世界との出遇いが開かれるのだと、教えられるのです。■



**冷蔵庫にあるもので
美味しい料理を
作るわよ**

これぞ、プリコラージュ

お知らせ

27年にわたり総代を勤めてくださいました、仙崎の藤田平二さんが退任されることになりました。長い間、極楽寺のためにご尽力いただき、ありがとうございました。後任には、向山の木村重彦さんが就任されます。また、向山の世話人を木村辰也さんをお願いすることになりました。どうぞ、よろしく願いいたします。

第38回児童念仏奉仕団中止のお知らせ

4月号でご案内しました、児童念仏奉仕団(7/28～30 本願寺・ユニバーサルスタジオジャパン)は、新型コロナウイルスの影響により、中止となりました。



極楽寺ホームページ

極楽寺.comで検索を

極楽寺だよりの過去の記事をはじめ、盛りだくさんの内容です。

住職の



□ 緊急事態宣言はようやく解除され、ようやく落ち着いてきましたが、新型コロナウイルスの影響はまだまだ油断できない状況です。しかし、ゴールデンウィークには他府県ナンバーの車をよく見かけました。野波瀬への他府県からの釣り客も、多かったようです。気になるから目についたのかもしれませんが…。□ 先月、お笑い芸人の江頭2:50さんが、感染予防を啓発する動画を配信しました。「感染拡大を止めるには、お前ら一人一人の行動にかかっているんだよ。もう他人事じゃないぜ」と感染

拡大が止まらない現状を憂い、「自分の大切な人がコロナにかかった時のことを、いなくなってしまった時のことを想像してみてくれ」と呼びかけ、「大切な人の命を守る、そう思って行動してみてください」と訴えかけたのです。「さすが、エガちゃん!」と、大きな反響を呼びました。□ 「大切な人を思う」。それは私たちが生きる上で、とても大きな力を与えてくれます。そして、自分の生き方を振り返らせてくれます。やっぱりエガちゃん、良いこと言ってくれますね。下品で過激な芸風の江頭さんですが、東日本大震災の際には、一人でトラックに積んだ支援物資を届けるなど、実はピュアで優しい人なのです。昔から「一番好きな芸人は?」と聞かれると「江頭2:50!」と答えてきた私としては、誇らしい思いになりました。本人は「芸風に影響するから」と、そんな目で見られるのを嫌いますが、それも含めたエガちゃんが私は大好きなのです。□ 先日は、PCR検査を受けた20代の東京在住の女性が、結果を待たずに高速バスで実家に帰省し、友人とバーベキューまでし、その後感染が発覚したということが報道されました。彼女は、大切な人に会うために帰省したのでしょうか、本当に大切に思っていたのでしょうか。何とも、軽率で情けない話です。しかし、ここぞとばかりに起きた、彼女への行き過ぎた誹謗中傷、もいかなものかと思えます。「大切な人を守るため」という大義名分をふりかざせば、何をしても良いという考えもまた、大切な人を踏みにじる行為ではないでしょうか。□ 「大切な人を思う」とは、どういうことなのか。よくよく、考えてみる必要がありそうです。(住)

